

第5学年国語科学習指導案

日時 平成26年11月7日(金) 公開授業I

対象 5年2組 男17名 女15名 計32名

指導者 七戸由香

1 単元名 作品を自分なりにとらえ、朗読をしよう 「大造じいさんとガン」

2 単元の目標

第5学年及び第6学年目標

目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。

- (1) 自分の思いや考えが伝わるように朗読をすることができる。
- (2) 登場人物の心情や場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめることができる。

3 単元の評価規準

観点	B：おおむね満足できる
国語への 関心・意欲・態度	文章から読み取ったこと、自分なり感じたことや考えたことを基に、朗読しようとしている。
読む能力	登場人物の心情や場面の情景を読み取り、自分なりにとらえた心情や情景が表れるように朗読している。(エ) 動物を描いた本を読み、内容に対する自分の考えをもって、朗読や本の紹介をしている。(ア)
言語についての 知識・理解・技能	人物の心情を表す語句に着目して読むとともに、気持ちがよく表れるように朗読の工夫をしている。(イ(カ))

4 単元について

(1) 児童について

児童はこれまでに、作品の内容を理解し、それを、音読の読む速さ、強さ、声の調子、間の取り方等に表してきた。音読は毎日の家庭学習として取り組んでいるが、個人差が大きく、声の大きさや速さ、また表現豊かに音声化できる児童は少ない。

物語の学習は楽しみながらできているが、登場人物の関係をとらえたり、心情を想像したりすることを苦手としている児童が多い。また、自分の考えを発表し合い、友達の考えに共感したり、自分の考えと比べて聞いたりすることが苦手である。

児童は5年生になり初めて朗読の学習をすることになる。朗読は、読者として自分が思ったことや考えたことから対象としている文章の全体的なイメージを明確にし、そのことを相手に分かってもらえるように伝えようとして音声化するものである。児童一人一人が自分なりに解釈したことや、感心や感動したことなどを、文章全体に対する思いや考えとしてまとめ、表現性を高めて伝えることに重点がある。同じ文章を読んでも、一人一人の感じ方や思い、考えなどが違うことを大事にするとともに、どのように音声化すれば聞き手にもよく味わってもらえるかなどを考えながら相互に朗読し合っ楽しむことを重視しなければならない。そこで、中学年まで学習した音読の基礎を押さえながら、優れた情景描写によって、人物の深い心情や性格について想像し、自分なりの読み方で朗読する力を児童に付けていきたいと考える。

(2) 教材について

本単元の主たる指導事項は、「すぐれた表現を味わいながら読み、直接書かれていない人物の心情や性格について想像し、自分なりの考えや思いをもって朗読する。」である。この力を培うためには、「作品の世界を自分なりにとらえイメージ化する」「相手に分かってもらえるように音声化する」などの力を育てていく必要がある。

「大造じいさんとガン」は、狩人「大造じいさん」とガンの頭領「残雪」との間に繰り広げられる生存闘争が生き生きと描かれている。場面の転換や物語の山場の部分に細かな行動描写や自然描写が見られ、さらに戦う残雪の行動描写などの巧みさが児童を物語の世界に引き込む作品である。

また、自分なりの考えや思いを朗読によって交流することは、いろいろなとらえ方があることを実感することのできる重要な言語活動であると考え。ここで「情景」という言葉に出会うとともに、場面についての描写、登場人物の相互関係や心情をとらえ、優れた叙述について自分なりの考えをまとめる力を育てることができるであろう。

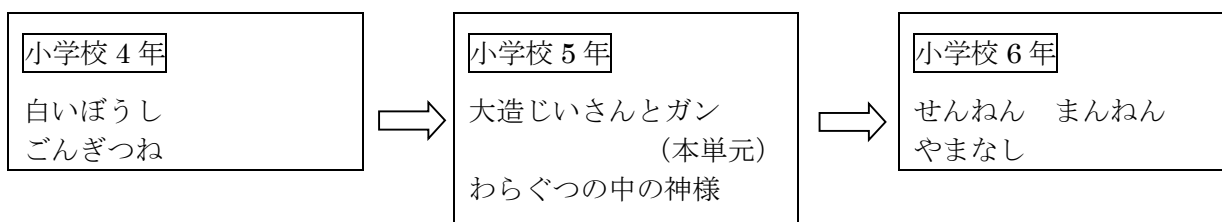
(3) 指導について

はじめに、これまでの音読経験を振り返らせ、朗読との違いを理解させたい。4学年で学習した「ごんぎつね」の一部引用し、音読と朗読の違いについて体感させることで、朗読に対する意欲付けを図りたい。そして「本は友達」にある本を朗読で紹介するという本単元のゴールをイメージさせる。これらの本は、並行読書として取り組ませる。

「大造じいさんとガン」を読み、登場人物の心情をとらえるためには情景描写に気を付けて読むことの必要性をおさえない。内面にある心情を表す言葉や表現のすばらしさに気付かせるようにする。児童がそれぞれの考えや思いを朗読で表現する交流場面を多く取り上げ、友達の表現のよさや自分との違いなどに気付かせ、交流を通して自分の考えを明確にすることができるようにする。

これらの学習をふまえて、動物の物語を紹介するために場面を選び、自分なりに感じたことや考えたことを基に朗読の工夫を考え表現に生かせるようにしたい。

5 単元の系統と他教科との関連



6 単元の指導計画（11時間扱い）

- (1) 「大造じいさんとガン」全文を読み、作品全体の概観をつかむ。 1 時間
 - ・新出漢字や語句を調べる。
 - ・自分の心に残った場面や気になった場面についての感想を交流する。
- (2) 単元元全体の学習計画を立てる。 1 時間
 - ・朗読の意味や音読との違いを知る。
 - ・動物の物語を読み、朗読発表をするという本単元のゴールを知る。
- (3) 場面毎の作戦について、情景描写をとらえながら読み取る。 3 時間
 - ・各作戦とその方法、結果を書き抜く。
 - ・登場人物の心情が分かる直接的な描写を見付けたり、暗示的に表現されている会話や情景描写について取り上げたりして、内面にある心情を想像する。
 - ・心情を自分なりにとらえて朗読のしかたを考える。
- (4) 作品全体を通して大造じいさんの人物像をまとめる。 1 時間
 - ・これまでの学習を基にした自分なりの解釈から根拠を明らかにして人物像をとらえる。
 - ・初めの感想と比べたり、友だちの考えと自分の考えを比べたりする。
- (5) 心に残るおすすめ場面を選びの朗読のしかたを考える。 1 時間
 - ・大造じいさんの残雪に対する思いが表現されている場面やそれを表す情景描写から選ぶ。
- (6) 心に残るおすすめ場面の朗読を聞き合い、感想を伝え合う。 1 時間（本時）
- (7) 動物の物語を読み、朗読表現するための場面を選び、朗読のしかたを考える。 2 時間
 - ・心に残った場面を選び、心情を表す語句や情景に着目して朗読の練習をする。
- (8) 朗読発表会を開く。 1 時間

7 本時について

(1) 目標

自分の読み取ったことを基に心に残った場面の朗読を発表し、感想を伝え合うことができる。
 <読む能力>

(2) 「自分の考えをもつ^自」「互いの考えを交流する^交」「互いの考えのよさに気づく^気」場面

グループや全体で朗読の工夫について話し合う場面において、どのように音声化すれば相手に自分の思いを伝えられるのか「互いの考えを交流」し「互いの考えのよさに気づく」ようにし、互いに朗読し合うことで作品の世界を楽しむことができるようにする。

(3) 展開

段階	学 習 活 動	場面	○指導上の留意点 ●評価の観点 (方法)
導 入 5 分	1 本時の学習課題を把握する。 心に残った場面を朗読し、感想を伝え合おう。 2 課題解決の見通しをもつ。 ・グループで交流するときのイメージをつかむ。 ・個、グループ、全体で活動する時間配分を決める。		○モデルを提示し感想交流の参考にさせる。 ○根拠となる描写から心情を自分なりにどのようにとらえたのか明確にして発表することを確認する。
展 開 35 分	3 課題解決をする。 (1) 一人で朗読の練習をする。 (2) グループで交流する。 ・同じ場面を選んでいるグループ同士で、それぞれその場面をどう読みたいかを伝えてから朗読をする。 ・自分の思いを伝えるために、どこでどんな朗読の工夫をしていたか、それが伝わってきたかなどについて相互に助言し合ったり、感想を話し合ったりする。 ・助言されたことをもとに、自分の朗読に生かし、印象や感じ方の違いをとらえる。 (3) 全体で交流する。 ・どのような交流が行われたかグループ毎に発表する。 ・児童なりの考えや思いが伝わるような朗読になっているか全体で聞き合う。 ・大造じいさんの残雪に対する思いやそれを表す情景描写を朗読に生かす工夫の仕方をまとめる。	交 気 交 気	○友達との相違点などについて、様々なとらえを認め合えるように助言する。 ●自分の思いや考えが伝わるように工夫しながら朗読をしている。 (観察・学習シート) ○全体でグループの交流を共有する。
終 末 5 分	4 学習を振り返る。 ○今日の朗読発表を振り返り感想を書こう。 5 次時の学習を確認する。		○友だちのよさやがんばりに気付いている児童を紹介し価値付けを図る。

(4) 板書計画

心に残った場面を朗読し、感想を伝えあおう

グループ交流の仕方

○自分なりの考え、伝えたい思い ↓ 朗読
朗読を聞く ↓ 伝わった思い、さらに工夫できること (助言)

(例)

教科書P122参照の紙板書

朗読の工夫

ウナギつりばり作戦

くやしい、やられた ↓ 強く、はっきり、こうふんしたように
ぜったいつかまえてやる ↓ 力強く、速く、文末を上げる

タニシ作戦

今度こそ、決意 ↓ ゆっくり、確かめるように

おとり作戦

きつとうまくいく、自信がある ↓ ゆっくり、はっきり、低く
文末を下げる
「強く心を打たれて」 ↓ しずかに、声をおさえて

残雪を見守る

親しみを感じる ↓ やさしく語りかけるように
晴れ晴れとして ↓ 明るく、ある言葉を強調する